

Oracle Developer Tools for Visual Studio .NET

って、なんだ？

Level				
1	2	3	4	5

Technology Tools
☒ Visual Basic
☐ Visual C#
☐ Visual C++
☐ SQL Server
☐ Oracle
☐ Access
☐ ASP.NET
☒ Other:
Oracle10g
Oracle Developer Tools for Visual Studio .NET

Samples
・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、 http://www.shoeisha.com/mag/windev/ からダウンロード可能です。

はじめに



Visual Basic .NETからOracleデータベースに接続するミドルウェアには、以下の4種類がある（図1）。

- ①VB時代のデファクトスタンダードであるOracle Objects for OLE（以下oo4o）
- ②ADO.NETのOLE DB .NET Data Provider（OLE DBプロバイダはOracle専用品）
- ③ADO.NETのOracle専用クラスのOLE DB Provider for Oracle
- ④Oracle社のADO.NET互換のOracle Data Provider for .NET（以下ODP.NET）

この中で実用的な選択肢は、機能の豊富さから考えると①に、.NET Frame

workとの親和性を考慮すると④になる。

②は図1にあるように、ADO+OLE DBの頃と同じように中間処理層が多い上、その間の処理時間や共通化による機能の欠落があるため、除外したほうがよい。

また、③は④と同じではあるが、接続にあたってマイクロソフトが提供する機能とOracleが提供する機能の境目がプログラムコードから見えないため、除外したほうがよい。

Oracleが提供する機能がVB.NETから見えるところにある①や④であれば、万が一問題が発生しても、Oracleが提供しているクラスの使い方を工夫することで、回避できる可能性もある。

ただし、現在提供されているOracleデータベースのクライアントモジュールの最新版は10.1.0.3であるが、この版で提供されている④には、②や③と比較するとVB.NETの“IDEとの親和性”という点で弱点がある。②や③を選択すれば、IDEのサーバーエクスプローラ（VB6時代のVisual Data Toolsに相当）を使って、IDEにOracleデータベースに対するテーブルの定義やデータ参照など、さまざまな機能が追加できるからだ。

コードさえ書ければ、④がデファクトスタンダードになる可能性が高いが、開発環境の充実度から見ると、他のミドルウェアに水をあけられてしまっている感否めない。

もちろん、Oracle社も手をこまねているわけではなく、その差を埋めるべく、Oracle Developer Tools for Visual Studio .NET^[註1]を開発中で、日本語にも対応したβ2版（2005年4月1

図1：VB.NETからOracleに接続する方法

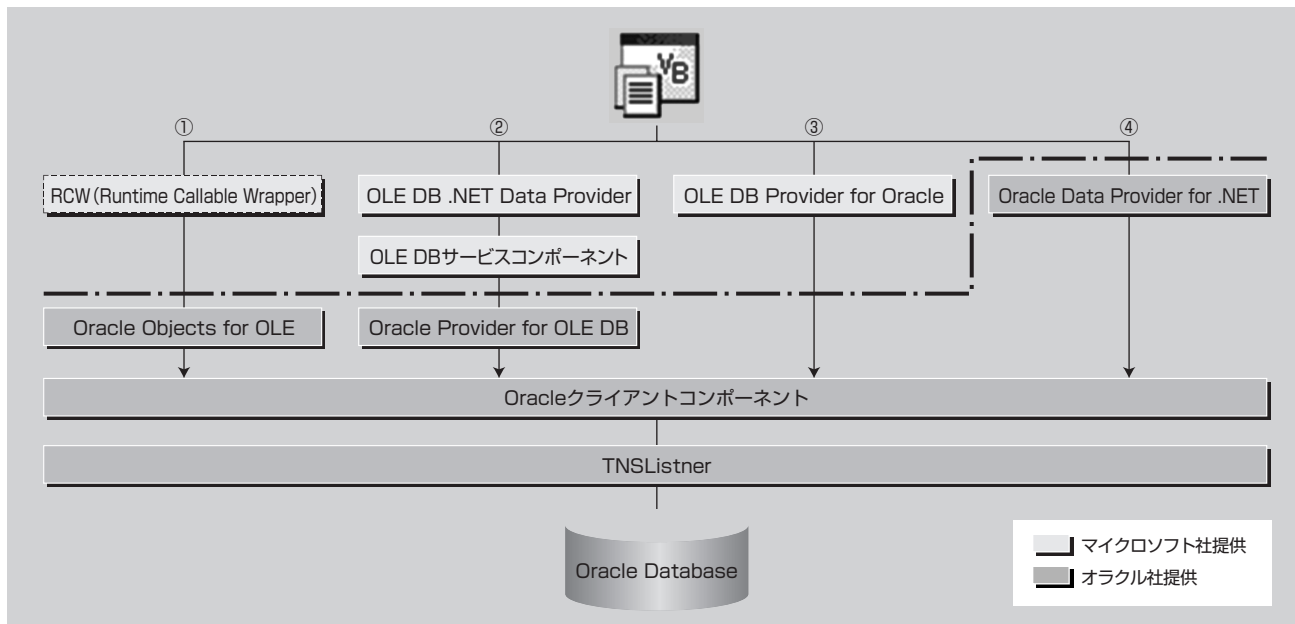
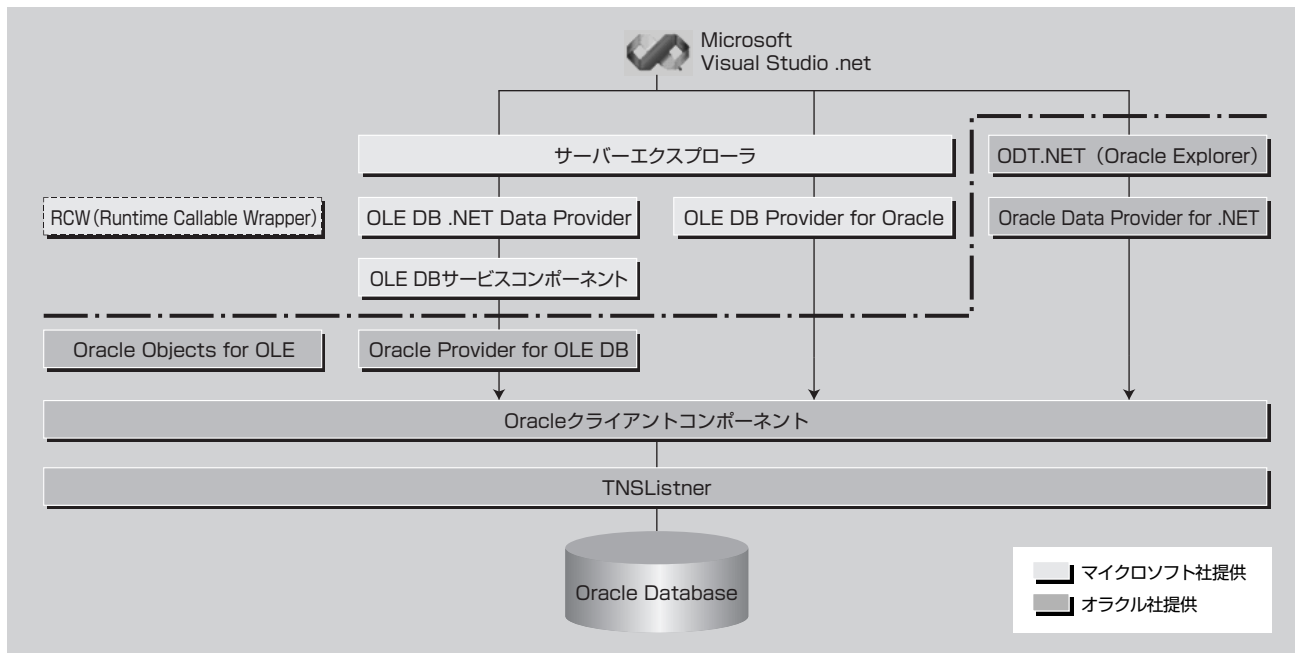


図2：VS.NETからOracleに接続する方法



日現在) をhttp://www.oracle.com/technology/software/tech/dotnet/odt_index.htmlにて配布している。

今回は、このOracle Developer Tools for Visual Studio .NETについて、探りを入れてみたいと思う。

ODT.NETってなんだろう



Oracle Developer Tools for Visual Studio .NET (以下 ODT.NET) は、VS.NETとOracleデータベースの間を取り持つIDEのアドインだ (図2)。対象となるOracleデータベースは、サーバーエクスプローラが“Oracle8iのみ”であるの

注1) β2では、VS.NET 2003にのみ対応